

教育内容

専門分野

小児看護学

母性看護学

看護の統合と実践

目次

小児看護学	1
母性看護学	10
看護の統合と実践	18

《小児看護学》

目的

小児各期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある小児と家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

目標

1. 小児期にある対象の特徴と小児看護の役割を理解する。
2. 小児の成長・発達を助長するための日常生活援助の方法を理解する。
3. 小児の成長・発達や健康に及ぼす環境要因を理解し、健康の保持増進および疾病の予防の重要性を認識する。
4. 小児の健康問題を統合的に理解し、健康障害をもつ小児と家族の看護が実践できるための基礎的知識・技術・態度を修得する。

科目名:小児看護学概論 単位数:1 時間数: 15 1 年 後期 講師名:黒岩翠 (専任教員)

科目設定理由

少子高齢社会を迎えて、子どもを取り巻く環境は急速に変化している。この変化の中で、次代を担う子供の健康を守り、より健康的な成長・発達を促していく看護の役割は大きい。本科目は、子どもと家族の特徴を理解し倫理的視点から小児の人権を守り小児の最善の利益を尺度に判断できるように学習する科目である。

学習目標

1. 小児看護の対象、目標、役割と倫理を理解する。
2. 小児を取り巻く保健・医療・福祉の動向を理解する。
3. 小児看護の現状と課題を理解する。
4. 小児看護学で用いられる理論を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 小児看護の対象 1) 子どもの特徴 2) 子どもと家族、社会 2. 小児看護の目標と役割 3. 子どもにとっての家族	講義	
2	1. 小児と家族の諸統計 1) 日本の人口構造 4) 児童虐待	演習 (グループワーク、発表)	
3	2) 出生と家族 3) 子どもの死亡 5)子育て支援		
4	1. 小児看護の変遷 1) 諸外国の児童観・小児医療の変遷 2) 日本の児童観・育児観の変遷 3) 日本の看護の変遷 4) 現代の小児看護	講義	
5	1. 小児の保健、政策 1) 小児の保健、政策の歴史	講義	50分
6	1. 小児看護における倫理 1) 子どもの権利 児童福祉 2) 子どもの人権に関する法律 3) 医療現場で起こりやすい倫理問題	講義 演習(グループワーク、 発表)	
7	1. 小児看護の課題 1) 疾病構造の変化と小児看護 2) 社会の変化と小児看護 3) 小児看護の専門分化 4) 病児と家族の看護	講義	
8	1. 小児看護で用いられる理論 1) ピアジェの認知発達理論 2) エリクソンの自我発達理論 3) ボウルビイの愛着理論 4) ハヴィガーストの発達課題	講義 演習(グループワーク、 発表)	

評価方法: 筆記試験 100 %

テキスト: 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児看護臨床総論 医学書院

厚生の指標増刊 国民衛生の動向

科目名：小児看護援助論 I (成長発達・保育・養育) 単位数：1 時間数：30 1 年後 期

科目設定理由

ライフサイクルにおいて小児期はめざましい成長・発達の時期にある。新生児期から思春期までの成長・発達および健康の評価を行い、健康の保持増進を促す看護を学ぶ。また、小児期の成長・発達の特徴、未成熟にある小児期の免疫と予防接種、子どもの成長・発達を促す養育、栄養や遊び、学校保健を理解する。これにより、子どもと家族の看護に必要な知識を身につけるための科目とする。

学習目標

1. 小児の成長・発達と健康の評価を理解する。
2. 小児の栄養と基本的な生活習慣の自立へ向けての擁護を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 小児の成長・発達 1) 成長・発達の概念 2) 成長・発達の原則 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長・発達の評価	講義		医師 福田豊 (11h)
2	1. 新生児期の子どもの成長・発達 1) 新生児の定義 2) 形態的特徴 3) 生理的特徴	講義		
3	1. 乳児期の子どもの成長・発達 1) 乳児期の定義 2) 形態的特徴 3) 機能的特徴	講義		
4	1. 幼児期の子どもの成長・発達 1) 幼児期の定義 2) 形態的特徴 3) 機能的特徴 4) 精神・運動機能の発達 5) 免疫と予防接種	講義		
5 6	1. 学童期の子どもの成長・発達 1) 学童期の定義 2) 身体的特徴 3) 機能的特徴 1. 思春期の人々の成長・発達 1) 思春期の定義 2) 体的特徴 3) 機能的特徴	講義	6 回目 50 分	
7	1. 新生児期の養育 1) 日常生活の世話 2) 事故防止 3) 感染予防 4) 家族関係の調整 5) 愛着形成 6) 新生児期の栄養 (1)授乳 人工乳の飲ませ方 排気	講義		大橋美貴 (1:新生児)

8 9	1. 乳児期の養育 1) 日常生活の世話 2) 事故防止 3) 乳幼児突然死症候群とその予防 4) 育児支援 5) 乳児期の栄養 (1) 栄養と離乳 (2) 離乳食の作り方	講義 演習 (グループワーク)		
10	1. 幼児期の養育 1) 日常生活の世話 2) 事故防止 3) 生活習慣の改善 4) 育児支援 5) 幼児期の栄養 (1) 食生活と食育	講義 演習		
11 12	1. 遊びの支援 1) 乳児と幼児の遊びの支援 1. おもちゃ作りの実際 1) 発達段階にあった遊び	講義 演習 (個人ワーク)	11 回目 50 分	保育士 3h
13	1. 学童期の保健 1) 学童期にみられる健康問題・保健統計 2) 不適応行動・症状 3) 子どもを取り巻く諸環境 4) 学校保健 5) 健康教育 6) 学童期の栄養	講義		小学校 養護教諭 室井一幸
14	1. 思春期の保健 1) 思春期にみられる健康問題・保健統計 2) 不適応行動・症状 3) 子どもを取り巻く諸環境 4) 学校保健 5) 健康教育	講義		中学校 養護教諭 室井一幸
15	1. 健康障がいを持つ子どもと家族への看護 1) 入院生活から在宅への移行に向けた支援	講義	50 分	ループ 相談支援 専門員 小野美也子
16	1. 健康障がいを持つ子どもと家族への支援 1) 医療的ケアの必要な子ども・家族への支援 2) 多職種連携と社会資源の活用	講義	50 分	ふらっぶ 看護師 吉田千春
17	1. 医療的ケア児支援法 1) 小児における医療的な支援体制	講義		支援学校 看護師 長谷川由希恵

評価方法: 筆記試験 100 %

テキスト: 小児看護学[1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院

科目名: 小児看護援助論Ⅱ (疾患・看護)**単位数: 1****時間数: 30 2 年 前 期**

科目設定理由

小児期に多い疾患、特有の症状、疾病発生のメカニズム、検査、治療法を理解する。これにより、疾患・健康問題を持つ子ども・家族への看護援助に必要な知識を身につけるための科目とする。また、疾病や障がいを持つ子どもと家族の看護、入院・外来・在宅など子どもを取り巻く環境や生活の場における看護を理解する。

学習目標

1. 小児期に起こりやすい疾患、特有な症状、疾病発生メカニズム、検査、治療法に関する知識を習得する。
2. 小児看護に必要な看護技術について、原理原則および手順を理解する。
3. 発達段階とさまざまな状況にある小児と家族への看護を理解する。
4. 健康障がいを持つ小児と家族への看護について理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 新生児期、乳児期に起こりやすい疾患の病態、症状、検査、治療 1) 新生児仮死 2) 低出生体重児の特徴と疾患 3) 出血性疾患、 4) 呼吸窮迫症候群 5) 乳児栄養障害	講義		医師 木下英俊
2	1. 感染症 〔麻疹、風疹、水痘、突発性発疹、手足口病発疹、ポリオ、流行性耳下腺炎、日本脳炎、百日咳、ジフテリア、破傷風、川崎病〕	講義		
3	1. 呼吸器疾患 1) 悪性新生物 2) 肺炎、喘息、神経芽細胞種	講義		
4	1. 消化器疾患 〔口唇裂、口蓋裂、腸管閉塞症、乳児下痢症、ヒルシュスプリング病、先天性胆道閉鎖〕	講義		
5	1. 循環器疾患・血液疾患 〔先天性心疾患、突然死、血友病、紫斑病、白血病〕	講義		
6	1. 腎、泌尿器疾患・神経・筋 1) 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 2) 脳性麻痺、熱性けいれん	講義		
7	1. 内分泌疾患・代謝性疾患・皮膚疾患 〔小人症、巨人症、肥満症、アセトン血性嘔吐症、スティーブンス・ジョンソン症候群、脂漏性皮膚炎、汗疹〕	講義		
8	1. 子どもの健康状況のアセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション、あやし 2) バイタルサインの測定 3) 身体測定(新生児～幼児) 4) フিজカルアセスメント	デモンストレーション 学内実習		看護師 高野真意

9	<p>1. 子どもの安全を守るために必要な技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 測定、計測 2) 事故防止 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体の抑制 (2) 処置中の乳幼児の固定方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 点滴静脈内注射 ② 検体採取 <ul style="list-style-type: none"> ・分泌物 ・尿(採尿パックの貼り方) (3) 腰椎・骨髄穿刺 (4) 吸入 (5) 鼻腔吸引 <p>2. 子どもの与薬に必要な技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 3) 経口与薬 <ol style="list-style-type: none"> (1) 注入器、スポイト、スプーン 乳首と注入器 4) 経腸与薬 <ol style="list-style-type: none"> (1) 坐薬 (2) 浣腸 	デモンストレーション 学内実習		看護師 高野真意
10	<p>1. 成長・発達に合わせた遊びや病気の理解の援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 遊びの援助 2) プレパレーション 3) 活動制限が必要な子ども・家族への看護 4) 子どもの発達に応じた日常生活への援助 	講義		
11 12 13 14 15	<p>1. 外来における子ども・家族への看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来における緊急度の把握・トリアージ 2) 外来における感染症対策 3) 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 4) 健康診査・育児相談 <p>2. 子どもに起こりやすい疾患と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症と看護 2) 呼吸器疾患と看護 3) 循環器疾患と看護 4) 消化器疾患と看護 5) 血液・造血疾患と看護 6) 悪性新生物と看護 7) 腎・泌尿器疾患と看護 8) 代謝・内分泌疾患と看護 	講義		

評価方法: 筆記試験 100 %

テキスト: 小児看護学[1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院

小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献: 写真でわかる小児看護技術 株式会社インターメディカ

科目名:小児看護援助論 Ⅲ(事例演習) 単位数:1 時間数:15 2年後期 講師名:黒岩翠(専任教員)

科目設定理由

疾病や障害を持つ子どもと家族の看護、入院・外来・在宅など子どもを取り巻く環境や生活の場における看護を理解する。

それらの知識をもとに、紙上事例の演習をすることで、さまざまな発達段階にある患児・家族に必要な看護を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 紙上事例の演習を通して、子どもと家族に必要な看護の方法を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	健康問題を持つ子どもと家族への看護 経過と看護 1. 疾病の経過と看護 1) 急性期・回復期の特徴と看護 2) 慢性期の特徴と看護 3) 周術期の特徴と看護 4) 終末期の特徴と看護	講義	50分
2	1. 健康障害を持つ子どもと家族への看護	演習 (グループワーク、発表)	
3			
4	1)看護の展開		
5	(1)急性期のある子ども・家族への看護		
6	乳児期		
7	(2)急性期にある子ども・家族への看護		
8	幼児期		
	(3)慢性期にある子ども・家族への看護 幼児期		
	(4)終末期にある子ども・家族への看護 学童期		

評7価6方法: 演習 レポート 100 %

テキスト: 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院

小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献:写真で分かる小児看護技術 株式会社インターメディアカ

科目名:小児看護学実習 I 単位数: 1 時間数: 45 2年 後期

科目設定理由

地域の子どもたちの生活や学習の場(保育園・小学校・中学校・支援学校・発達支援施設)で実習を行う。子どもたちと一緒に遊び、学び、活動を通して健康な子供たちから学ぶとともに、健康を支援する養護教諭や看護師の役割を学ぶ科目とする。また、支援学校や発達支援施設においては、健康問題を抱えながら生活する児童・生徒と触れ合い、実際の援助場面を通して学び、小児看護学実習Ⅱにつながる科目とする。

学習目標

1. あらゆる健康レベルにある小児との関わりを通して、成長・発達やその対象を取り巻く環境を理解する。

授業計画

行動目標	実習場所	時間(日数)
1. 健康な小児の理解 乳児～幼児期 1) 乳児期に親しみを持って関わることができ、コミュニケーションがとれる。 2) 乳幼児の言動や遊びにみられる発達段階の特徴(形態的、精神・運動機能)が説明できる。 3) 乳幼児の発達段階に合わせた生活の世話を保育教諭と共にできる。 4) 発達段階に応じた遊びの種類と保育教諭の関わりが説明できる。 5) 乳幼児の安全を守るために必要な環境を述べることができる。	やまがみらいこども園	15 時間(2 日)
1. 健康な小児の理解 学童期 1) 児童・生徒にとっての保健室の役割が説明できる。 2) 児童・生徒とのかかわりを通して、成長・発達の実際を知り、健康な児童・生徒について説明できる。 3) 学校における健康管理の実際を知り、学童期～思春期の健康問題が説明できる。	市内小学校 又は 市内中学校	7.5 時間(1 日)
1. 健康問題を持つ小児の理解 1) 支援学校の概要が説明できる。 2) 児童・生徒と関わり、日常生活や授業の実際を知る。	福島県立会津支援学校	7.5 時間(1 日)
1. 健康問題を持つ小児の理解 発達支援 1) 施設の概要と活動内容が説明できる。 2) 子どもの成長や発達に合わせた生活の援助(遊びを含む)ができる。	総合発達支援プラザ ふらっふ	15 時間(2 日)

評価方法: 実習記録 実習態度

実習要項参照

科目名：小児看護学実習Ⅱ 単位数：1 時間数：45時間 3年 前後期

科目設定理由

病気や障害による入院は、患児だけでなく家族にも大きな影響を与える。本科目では、疾病や障害により入院した児を受け持ち、看護展開する。患児・家族への看護について考えることができ、必要な看護技術を指導の下で実施することを目標とする。
また、入院・外来など患児を取り巻く環境や生活の場における看護を理解する科目とする。

学習目標

1. 患児とその家族を理解し、成長・発達段階、健康レベルに応じた看護が実践できる。

授業計画

行動目標	実習場所	時間(日数)
1. 患児とその家族の看護 I) 患児の成長・発達段階、健康障害の状態および家族の状況が説明できる。 2) 小児の特徴をふまえ、安全・安楽・自立を考慮した援助ができる。	竹田総合病院 6階西病棟・小児科外来	45時間(6日間)

評価方法：実習記録、実習態度

実習要項参照

《母性看護学》

目的

女性の健康とリプロダクティブヘルスの意義を理解し、女性とその家族を対象に、必要な看護の基礎的知識・技術・態度を修得する

目標

1. ライフサイクル各期にある対象および母子とその家族を対象に、母性看護の特徴と役割を理解する。
2. 母子保健医療福祉の観点から母性看護の現状を学び、女性のライフサイクル各期の看護を理解する。
3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある母子とその家族を対象に、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。
4. 健康問題にある妊娠・分娩・産褥・新生児期にある母子とその家族を対象に、看護の基礎的知識・技術・態度を理解する。

科目名：母性看護学概論 単位数：1 時間数：30 1年後期 間瀬陽子(専任教員)

科目設定理由

女性の生涯や役割の多様化、妊娠年齢の高齢化や少子化など母子をめぐる環境は著しく変化している。母性看護の役割は妊産褥婦および新生児への看護だけではなく、次世代の健全育成を目指した女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防など、ますます拡大している。そこで、母性の概念及び母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題を通して、母性看護に必要な知識を学び、リプロダクティブヘルス/ライツの観点から女性とその家族をより健康に導くための看護を習得する科目とする。

学習目標

1. 母性看護の概念、対象および特徴とリプロダクティブヘルス/ライツを理解する。
2. 母子保健医療福祉の現状を理解し、女性とその家族の看護を理解する。
3. 女性のライフステージ各期における心身の特徴と健康問題について理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1.対象理解の基盤となる概念 1)母性・父性・親性 2)母親役割、父親役割 3)母子相互作用・愛着形成 4)家族の発達・機能	講義	大橋美貴
2	1. リプロダクティブヘルス・ライツに関する概念 1)リプロダクティブヘルス・ライツ 2)セクシュアリティ 3)セックス、ジェンダー 4)性の多様性 (1) 性同一性障害 (2) 性分化疾患 (3) LGBT	講義 演習(グループワーク)	
3 4	1. 生殖に関する生理 1)ヒトの発生・性分化のメカニズム 2)女性生殖器の機能 3)性周期 4)受精・着床 5)第二次性徴 6)性意識・性行動の発達 7)性反応 8)家族計画・受胎調整	講義 演習(グループワーク)	
5 6	1. 母子保健の動向と施策 1)母子保健の統計の動向 ①出生に関する統計 ②新生児・乳児・周産期死亡に関する統計 ③妊産婦死亡に関する統計 ④死産・流産・人工妊娠中絶に関する統計 2)母性看護に関する法や施策と支援 ①DV防止法 ②性暴力被害者支援 ③虐待防止に関する法律 ④母体保護法 ⑤女性の就労に関する法律 3) 母子保健の現状と課題	講義 演習(グループワーク)	国民衛生の動向

7 8	1. 周産期システムと母子保健施策 1) 周産期医療のシステム 2) 母子保健法に関する施策の活用 3) 子育て支援に関する施策の活用 2. リプロダクティブヘルス・ライツに関する倫理 1) プライバシーの保護 2) 自己決定の尊重 3) 人工妊娠中絶と倫理的問題 4) 生殖補助医療と倫理的問題 5) 出生前診断と倫理的問題	講義 演習(グループワーク)	
9	1. 女性のライフサイクル各期の看護 1) 思春期・成熟期の健康問題 2) 更年期・老年期の健康問題	講義	50分
10 ～ 14	1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護 1) 思春期の健康と看護 2) 成熟期の健康と看護 3) 更年期の健康と看護 4) 老年期の健康と看護	演習(グループワーク) 発表 *13・14続き	国民衛生の動 向課題レポート
15	1. リプロダクティブヘルスケア/ライツに関する看護 1) 性感染症と予防 2) 受胎調節と家族計画 3) ドメスティックバイオレンスと看護 4) 性暴力と看護	講義 演習(グループワーク)	
16	1. 看護の基盤となる概念 1) 女性を中心としたケア 2) 家族を中心としたケア 3) エンパワメント 4) ヘルスプロモーション 5) セルフケア 2. 母性看護の展開方法 1) 母性看護における看護過程 2) ウェルネス看護診断の考え方	講義	ウェルネス看護診 断にもとづく母性 看護過程 医歯薬 出版株式会社 50分

評価方法：筆記試験 80% レポート 20%

テキスト：母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院
国民衛生の動向

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社

参考文献：母子保健の主なる統計（母子保健事業団）

科目名:母性看護援助論Ⅰ(正常な経過と健康問題) 単位数:1 時間数:30 2年前後期

科目設定理由

妊娠、出産は、女性と家族にとって重要なライフイベントあり、その後の人生に大きな影響を及ぼす。母性看護は妊娠、出産という生理的な変化のなかで、より良い健康をめざすウェルネスの視点を持ち、妊産婦とその家族が主体的に適応していくように、セルフケア能力を高める支援が求められる。しかし、妊娠、出産は順調に経過する確実性はなく、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児におこる問題についても理解し、健康状態のアセスメントと援助が求められる。本科目では、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期とその家族の健康について理解し、必要な看護を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と新生児の身体的・心理的・社会的特徴と必要な看護を理解する。
2. 母子の生理的変化を促進する看護を理解する。
2. 妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と新生児の健康問題について理解し、その状態にある母子と家族の看護を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1.妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴 1)妊娠の生理 2)胎児の生理 3)母体の生理的变化 4)マイナートラブル 5)妊娠期の心理・社会的特性	講義		助産師 倉沢由美(8h):妊娠 弓田真由美(6h):分娩 金田理衣(10h):産褥
2	1.妊婦と胎児のアセスメント 1)妊娠経過の診断 2)胎児の発育と評価表 3)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 4)母親役割過程のアセスメント	講義		
3	1.妊婦とその家族の看護 1)母子保健サービス 2)保健相談の実際 3)親になるための準備教育	講義		
4	1.健康問題にある妊婦の看護 1)出生前診断 2)妊娠高血圧症候群 3)切迫流産 4)切迫早産 5)多胎妊婦 6)妊娠糖尿病	講義		
5	1.分娩の要素と分娩経過 1)分娩の3要素 2)分娩の機序 3)分娩進行と産婦の身体的変化 4)産婦とその家族の心理	講義		
6	1.産婦・胎児のアセスメント 1)産婦と家族の健康状態のアセスメント 2)産婦と家族の心理・社会的アセスメント 2.分娩第1期から分娩4期の看護	講義		

7	1. 健康問題にある産婦の看護 1)前期破水 2)分娩遷延 3)胎児機能不全 4)分娩時異常出血	講義		
8	1. 産褥期の身体的変化 1) 産褥の定義 2) 全身の変化 3) 退行性変化 4) 進行性変化	講義		
9 10	1. 身体的機能回復および進行変化への看護 1)産褥復古を促進する看護 2)母乳育児への支援 3)褥婦の日常生活とセルフケアに対する看護 2. 産褥期の心理的・社会的変化 1)母親役割適応過程 2)マタニティーブルーズ 3)愛着形成 4)ソーシャルサポート	講義		
11	1. 褥婦と家族の看護 1)家族の心理的变化 2)家族関係の再構築 3)施設退院後の看護	講義		
12	1. 健康問題にある褥婦の看護 1)子宮復古不全 2)産褥熱 3)乳房トラブル 4)産後うつ病	講義		
13	1. 新生児の生理 1)新生児の形態・機能 2)ビリルビン代謝と生理的黄疸 3)新生児の栄養	講義		助産師 猪俣奈緒子(6h)
14	1. 新生児期のアセスメント 1)出生直後の評価 2)発育・奇形の評価 3)母子関係における新生児の評価 4)新生児の健康状態のアセスメント	講義		
15	1. 健康問題にある新生児の看護 1)早産児 2)低出生体重児 3)高ビリルビン血症 4)新生児ビタミン k 欠乏症 5)新生児蘇生	講義		

評価方法：筆記試験 100 %

テキスト：母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

科目名: 母性看護援助論Ⅱ(看護の展開・技術) 単位数:1 時間数:30 2年前後期 間瀬陽子(専任教員)

科目設定理由

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期とその家族をウェルネスの視点から援助するために、妊婦・産婦・褥婦・新生児および家族の健康維持・促進するために必要な看護技術と実践方法を学ぶ。さらに正常な母子の事例を用いて看護展開を演習することで、生理的な現象が順調に経過するための支援とセルフケア能力を高める看護を習得する科目とする。

学習目標

1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の看護に必要な看護技術を習得する。
2. 母子の状態をウェルネスの観点で捉え、看護過程の展開ができる。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	妊婦のアセスメントと看護	演習(個人ワーク)	◎	助産師 倉沢由美(2h) 弓田真由美(4h) 金田理衣(5h)
2	産婦のアセスメントと看護	演習(個人ワーク)	◎	
3	1. 妊産婦に用いる看護技術 1)レオポルド触診法 2)胎児心拍聴取(ドップラー・NST) 3)妊婦体操 4)分娩時補助動作・呼吸法・産痛緩和法	演習(グループワーク)	実習室	
4	褥婦のアセスメントと看護	演習(個人ワーク)	◎	実習室 6回目 50分
5	1. 褥婦に用いる看護技術	演習(グループワーク)	◎	
6	1)復古現象の観察と促進方法 2)産褥体操 3)リラクゼーションマッサージ 4)母乳育児支援			
7	新生児のアセスメントと看護	演習(個人ワーク)	◎	助産師 猪俣奈緒子(4h)
8	1. 新生児に用いる看護技術 1)バイタルサイン測定 2)全身の観察 3)身体計測 4)新生児の栄養 4)新生児の栄養 ・哺乳瓶授乳 ・排気のさせ方 5)新生児の安全・感染予防	演習(グループワーク)	実習室	専任教員
9	1. 育児に関する看護技術 1)おむつ交換・更衣 2)安全な抱き方・寝かせ方 3)児の清潔(沐浴)	演習(グループワーク)	実習室	
10 11	沐浴	学内実習	実習室 11回目 50分	
12 13 14 15 16	産褥・新生児期にある母子と家族への看護過程の展開	演習(個人ワーク・グループワーク・発表)		専任教員

評価方法: レポート100% 実技試験合否

テキスト: 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社(◎)

科目名：母性看護援助論Ⅲ（病態と看護） 単位数：1 時間数：15 2年 後期

科目設定理由

医療介入が必要な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の病態、検査・治療を理解する。経膈分娩が困難な場合の代替処置として行われる帝王切開は、医療技術の進歩に伴い毎年増加している。帝王切開は経膈分娩よりも母子ともにリスクが高く、必要な看護を習得する必要がある。また、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期は正常から逸脱し、異常な経過をたどり危機状態となる場合がある。その状況にある褥婦とその家族の看護を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常の病態生理及び治療方法を理解する。
2. 帝王切開後の褥婦の看護を理解する。
3. 予期しない危機状態にある褥婦とその家族に必要な看護を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1 2	1. 出生前診断 2. 妊娠期の異常 1) 妊娠期の感染症 2) 異所性妊娠 3) 妊娠悪阻 4) 血液型不適合妊娠 5) 多胎妊娠 6) 流産・早産 7) 常位胎盤早期剥離 8) 前置胎盤 9) 妊娠高血圧症 10) 妊娠糖尿病	講義		医師 金彰午
3	1. 分娩期の異常 1) 前期破水 2) 帝王切開術 3) 分娩時異常出血 4) 胎児機能不全 5) 陣痛異常(微弱陣痛・過強陣痛)	講義		
4	1. 産褥期の異常 1) 子宮復古不全 2) 産褥期 3) 乳腺炎 4) 産後精神障害 5) 分娩外傷	講義		
5	1. 新生児の異常 1) 新生児一過性多呼吸 2) 呼吸窮迫症候群 3) 胎便吸引症候群 4) 高ビリルビン血症	講義		
6	帝王切開術の看護	講義		
7 8	1. 予期しない危機状態にある褥婦とその家族への看護 1) 母子分離時の褥婦の看護 2) 児を亡くした褥婦・家族の看護 2. メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援	講義	8回目 50分	

評価方法：筆記試験 100 %

テキスト：母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

科目名：母性看護学実習 単位数：2 時間数：90 3年

科目設定理由

本実習では、妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児及びその家族を対象として、その家族の役割移行を理解し、健康の保持・増進と家族機能の順調な発達に関する援助について学ぶ。また、生涯を通じたリプロダクティブ・ヘルスを支える看護の役割・機能や多職種との協働体制を学び、対象の健康課題の解決や健康の維持増進に向けた看護を習得する科目とする。

学習目標

妊娠・分娩・産褥の各期にある女性および新生児とその家族に、必要な看護が実践できる。

授業計画

行動目標	実習場所	時間(日数)
1. 妊娠・分娩・産褥の各期にある女性と新生児の身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。	竹田総合病院 産科外来	15 時間 (2 日)
2. ウェルネス志向に基づいた看護過程を展開し、母子に必要な援助ができる。 3. ハイリスク妊婦、入院する新生児の特徴と看護について説明できる。 4. 母子を支えるための看護師の役割、社会的資源、関連機関・多職種との連携・協働について説明できる。 5. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念をもとに、生命の尊厳について記述できる。	竹田総合病院 分娩室・5階東病棟	67.5 時間 (9 日)
	竹田総合病院 NICU	4.5 時間 (午前半日) 3 時間※机上学習 (午後半日)

評価方法：実習記録・実習態度・出席時間、合わせて100%

参考資料：実習要項

《看護の統合と実践》

目的

これまで学んできた知識・技術を統合し、臨床実践能力の基本を確立する。

目標

1. チーム医療および他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解する。
2. 国際社会における看護活動の現状を知る。
3. 災害看護の基礎的知識を理解する
4. 医療安全および看護管理の基礎的知識を理解する。
5. 臨床判断の基礎的知識を理解する。

科目名：チーム医療と国際看護 単位：1 時間：30 2年後期 高野真智子（専任教員）

科目設定理由

看護師の職能の法的側面について保健師看護師助産師法から学ぶ。また、医療に従事する様々な職種の専門性やそれぞれが連携し合う医療チームの中での看護師の役割について学び、チーム医療や多職種連携の重要性を認識できる科目とする。

国際看護学は、地球上のあらゆる人々の健康問題を知り、それに対する看護の役割や、国際協力のしくみ等を学ぶことでグローバルヘルスを広く考えられる科目とする。

学習目標

1. 看護師の職能の法的側面について理解する。
2. 医療に従事する様々な職種の専門性を理解し、医療チームの中の看護師の役割を理解する
3. 地球上のあらゆる人々の健康問題を知り、それに対する看護の役割や国際協力のしくみを理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師
1	看護師の法的責任 1. 保健師助産師看護師法 1) 保健師助産師看護師法の構成および内容	講義		専任教員
2	2) 法に基づく看護師の業務 3) 欠格事項と行政処分 4) 看護師の免許			
3	1. チーム医療の意義と看護師の役割 1) チーム医療とは 2) チームの中の看護師の役割 3) 多職種との協働	講義 演習		専任教員
4	1. チーム医療の実際 1) 外来看護の役割 2) 外来治療を支援する看護師の役割 3) 医療チームでの役割と多職種との連携	講義		化学療法認定看護師 石本由美
5	1. チーム医療の実際 1) 入院施設における医師の役割 2) 医療チームでの役割と多職種との連携	講義		医師 上島雅彦
6	1. チーム医療の実際 1) 入院施設・地域における社会福祉士の役割 2) 医療チームでの役割と多職種との連携	講義		医療社会福祉課 山口可波
7	1. チーム医療の実際 1) 入院施設・地域における栄養士の役割 2) 多職種との連携	講義		管理栄養士 遠藤美織
8	1. チーム医療の実際 1) 入院施設・地域におけるリハビリテーションの役割 2) 医療チームでの役割と多職種との連携	講義		リハビリテーション科 村山由美
9	1. チーム医療の実際 1) 入院施設・地域における薬剤師の役割 2) 医療チームでの役割と多職種との連携	講義		薬剤師 小林史和
10	1. 医療チームを支える看護師の役割 1) 全ての医療者の安全を支える役割	講義		感染管理認定田 中さゆり
11	1. 国際看護を学ぶ意義 1) グローバリゼーションとヘルスプロモーション活動 2) ミレニアム開発目標(MDGs)と持続可能な開発目標(SDGs)	講義		専任教員
12	1. 自分たちができるSDGsを考える	演習		専任教員
13	1. 国際看護の実際 ― JICA の経験から	招致講義		助産師 (産婦人科病院) 大橋美貴

14	1. 世界の健康問題	演習 発表	専任教員
15	2. 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関とその活動		
	3. 開発途上国の現状と対策		

評価方法 1～10 筆記試験 11～15 レポート

テキスト 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院

田村やよい: 私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法第2版

災害看護学・国際看護学 医学書院

科目名:災害看護 単位数:1 時間数:15h 3年前期 講師名: 渡辺恵美子 (専任教員)

科目設定理由

近年国内外において、地震や風水害などの自然災害の多発や、放射線災害などの特殊災害が起きている。また、災害は広域化・長期化の傾向にあり、災害サイクルの全サイクルに応じた看護活動が必要となる。

本科目は、災害の種類や災害に関する法律、災害拠点病院の役割や各医療チームの活動など災害看護の基礎的知識を学び、各災害サイクルや要配慮者の心身への支援について考える科目とする。

- 学習目標
1. 災害によってもたらされる健康被害と看護活動を理解する。
 2. 災害活動に関連した法律や医療チームを理解する。
 3. 災害サイクルに応じた看護活動を理解する。
 4. 災害要配慮者の特性に応じた心身への支援を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 災害医療の基礎知識 1)災害の定義 2)災害の種類とそれに伴う健康被害 3)災害サイクル 4)災害看護の役割・対象 自己完結型行動	講義	
2	1. 災害に関連する法律と災害医療チーム 1)災害対策基本法、災害救助法、その他の法律 2)危険情報、避難情報、被害情報、生活情報 3)災害拠点病院 4)災害医療チーム<DMAP><DPAT> 5)ゾーニングと個人防護具	講義	
3	1. 災害急性期・亜急性期の看護 1)CSCATTT	講義	
4	安全確保、指揮と統制、救護所の立ち上げ トリアージ、応急処置、搬送	講義	DVD 50分
5	2)災害時に起きやすい外傷・疾病 クラッシュ症候群、深部静脈血栓症、低体温症、生活不活発病	学内実習	講堂
6	1. 災害慢性期・復興期・静穏期の看護 1)仮設住宅における被災者の健康支援 2)復興への支援 3)災害への備え、災害教育	講義	
7	1. 要配慮者に応じた災害看護 子ども、妊産婦、高齢者、障害者、精神障害者、慢性疾患患者、在留外国人、原子力災害による被災者	招致講義	相馬広域こころのケアセンター 米倉一磨
8	1. 災害とこころのケア 1)災害がもたらす精神的影響 2)支援の実際	招致講義	

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院

科目名: 看護管理と医療安全 単位数:1 時間数:15 3年前後期

科目設定理由

社会の変化に伴って、看護の場は、治療を中心とした医療から生活の場でのケアに移行している。看護職は医療とケアの専門職として社会から期待されている。人々の尊厳を守り、専門職としての責務を果たすためには看護管理が重要である。ここでは看護職自身の自律を支え、促進し、多職種と協働していくための基礎となる看護管理の知識を学ぶ科目とする。

さらに、看護師は医療安全に関する最新の知識・技術を学び、主体的に安全を守る技術を習得していく必要がある。ここでは、安全対策の概略、事故発生のメカニズムと発生防止の基礎的知識を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 看護部の組織とマネジメントの概要を理解する。
2. 労務管理、安全管理について理解する。
3. 看護管理に求められる能力について理解する。
4. 医療安全の考え方、事故発生の要因と防止策を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1 2 3 4	1. 看護管理 1) 組織とは 2) 看護管理とは(看護する上での管理とそのプロセス) 3) 看護提供方式 4) 労務管理 5) 業務管理 6) 人材育成・活用 7) 情報伝達と共有・管理	講義	4回目 50分	看護管理者 今泉純子
5 6 7 8	1. 医療安全のマネジメント 1) 医療安全への取り組みと医療の質の評価 2) 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 3) チームで取り組む安全文化の醸成 4) 看護業務に関連する事故と安全対策	講義		医療安全管理者 須田喜代美

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理
ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全

*2026年から電子教科書 医学書院

*2026年から電子教科書 医学書院

科目名: 臨床判断と看護 単位数:1 時間数:30 3年 前・後期 講師名:黒岩翠、渡辺恵美子 永井純

科目設定理由

看護師の活動は病院から地域へと多様な場に広がっている。また、実習先の病院は在院日数が短縮され、対象の看護を計画しても状態が変化し、ニーズに対応できない場面もでてきている。そのため、対象の状況に合わせた思考過程を育成することが求められている。それは、既習の知識を活用し、目の前の患者に何が起きているかを判断、看護する能力、つまり、臨床判断能力であり、看護基礎教育でも臨床判断の基礎となる能力の育成が求められている。

そこで、看護師のような思考で物事を考えることを臨床判断モデルに基づき学習する。「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」の4つの段階に沿って思考する学習を重ね、対象の状況や状態の変化に気づき、その場に応じたその人にとって最適な看護実践を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 臨床判断の基礎となる臨床判断モデルに沿った考え方が理解できる。
2. 臨床実習における「気づく」「解釈する」「反応する」を振り返り、自己の看護が省察できる。
3. 対象の状況を判断・予測し、その場に応じたその人にとっての最適な看護が実施できる。
4. 臨床実習における効果的な報告方法が理解できる。

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 臨床判断の基礎となる臨床判断モデルの4つの段階に沿った考え方	講義	1回目(50分)
2	2. 臨床場面における「気づく」の言語化および気づくを「解釈する」	演習(グループワーク)	専任教員2名
3	3. SBARを用いた報告方法		2・3・6回目 講堂
4	1. 臨床実習における臨床判断モデルに基づいた看護の振り返り	演習(グループワーク)	5回目(50分)
5	1)臨床実習での患者の状態・状況変化を振り返り、「気づく」を言語化		レポート
6	2)1)に対する学生の「解釈する」「反応する」を話し合う 3)実践した看護の「省察する」 4)上記の1)～3)をグループでまとめ発表 * 7月下旬までの臨床実習終了後に行う		
7	1. 臨床実習における臨床判断モデルに基づいた看護の振り返り	演習(グループワーク)	専任教員2名
8	1)臨床判断モデル「気づく」「解釈する」「反応する」を基に事例作成	ロールプレイング	9・10回
9	2)事例の紹介および質疑応答、情報追加		看護実習室
10	3)作成した事例のロールプレイング		
11	4)看護を「省察する」		
12	1. 提示された事例の看護実践	学内実習	13・14・15回
13	1)「気づく」「解釈する」をまとめる	看護実習室・研究室	看護実習室
14	2)看護実践「反応する」のトレーニング		研究室
15	3)事例に対する看護の実践(SBRAでの報告方法含む)		
16	2. 看護を「省察する」		レポート
	1)自己の看護の省察		
	2)グループで看護の省察		

評価方法: レポート 100% 実技試験 合否

科目名:統合実習 単位数:2 時間数:90 3年後期

科目設定理由

看護が適切に提供されるためには、チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ・リーダーシップを発揮することが必要である。ここでは看護管理について学ぶと共に、看護実践能力を養うため、複数患者の受け持ち・夜間実習・多職種との連携等について学ぶ科目とする。

学習目標

既習の知識・技術を統合し、医療チームの一員としてあたたかい心で看護が実践できる。

授業計画

行動目標	実習場所	時間 (日数)
1. 看護管理について理解できる。 2. 医療チームの一員として多職種と連携できる。 3. 多重課題の中で安全・安楽・安心をもたらす看護が実践できる。 4. 自己の看護観が追求できる。	竹田総合病院 各病棟	82.5時間 (11日間) ※夜間実習1日 (14:15～21:15) 含む
学内まとめ		7.5時間 (1日間)

評価方法 実習記録 実習態度 出席状況 100%